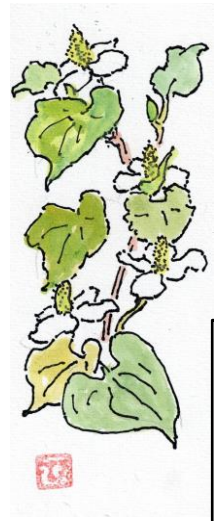


# 道

2022・5・25

通信 No 1684



ドク  
ダ  
ミ

《本日の練習》 小坂先生 二宮先生

・シチエドリック ・バンドゥーラを手にすれば(キエフの鳥の歌 森はざわめくも持参)

《次回6月1日》 清水先生 小坂先生 吉野町市民プラザホール

・モルダウ ・ワクワク(新曲) 他の楽譜も持参ください

本日臨時運営委員会を行います。休憩時間にホールにご参集ください。(企画選曲委員会の報告をします。)

## 西島三重子「池上線」の思い出

バス： 福本 三朗

池上線は蒲田と五反田を結ぶ、静かな住宅地を走る東急電鉄の路線。西島三重子の歌う「池上線」は別れる男女の悲哀を女性の視点から描いた作品で、昭和のレトロ風景を醸し出す懐かしい曲である。1976年4月25日発売。

就職して3年目、昼休みEVで地下食堂に向かう女性グループの中に少し背の高い清楚な女性が気になってきた。部署を確かめた後、内線電話で口実をつけてコンタクトに成功した。数回のデートを重ねて、彼女とは共感するものが多く、二人の距離も徐々に縮まってきた。ある晩遅くデート後彼女を家に送っていったところ、家に着いた時には池上線の終電時刻をわずかに過ぎていた。結局彼女のマイカーで

山手線最寄駅まで送ってもらうことに。しかし運命の女神は味方してくれなかった。この歌のように池上線のレールに二人の運命を託すことはかなわず、恋の成就是不ならなかった。その人は幼馴染の男性を結婚相手に選び、私は潔く祝福した。

1年後退職する際、彼女は私の職場に突如現れ、「その節はお世話になりました」と告げた。私は驚くとともに、彼女が私の存在を忘れていなかったのだ。彼女は今頃きっと子供たちや孫たちに囲まれて幸せに過ごしているに違

古い電車のドアのそば 二人は黙って立っていた  
話す言葉をさがしながら すきま風に震えて  
いくつ駅を過ぎたのか 忘れてあなたに聞いたのに  
じっと私を見つめながら ごめんねなんて言ったわ  
泣いてはダメだと 胸にきかせて 白いハンカチを握りしめたの  
※池上線が走る町に あなたは二度と来ないのね  
池上線に揺られながら 今日帰る 私なの※  
終電時刻を確かめて あなたは私と 駅を出た  
角のフルーツショップだけが 灯りともす 夜更けに  
商店街を通り抜け 踏切渡った 時だわね  
待っていますと つぶやいたら 突然抱いてくれたわ  
あとからあとから 涙あふれて 後ろ姿さえ見えなかったの  
※(※部分くり返し)

いない、またそうであって欲しいものだ。この歌を耳にすると、その頃の思い出が走馬灯の如く頭の中を駆け巡っていく。皆それぞれ自分の人生を映す歌があるように。 尊敬する“寅さん”に捧ぐ!

《バス懇談会》 6月 1日(水) 3時30分～4時50分 県民サポートセンター705号  
《運営委員会》 6月 8日(水) 3時00分～5時00分 県民サポートセンター708号

あの時の、あの歌を聴いて、人生の豊かさを感じた・・・等。あなたの思い出に残る歌、記事募集～!